



©Yuki Asada

## 草原の町で生まれたかごバッグ

辺り一面に広がる草原の中、大きな荷物を背に積んで運ぶロバ、狭く入り組んだ路地を買い物かごを手歩く人々。モロッコの田舎町でよく目にする光景だ。

首都ラバトから車で約6時間。草原の合間を縫うかのように小さな集落が連なっている。この地域で暮らすほとんどが大家族。一回の買い物も大量だ。そこで活躍するのが「かごバッグ」。手作りの大きなかごを抱えて、男性たちが買い物に出かけるのが習慣だ。材料は乾燥させた水草とヤシの葉。どれも町の周辺で入手できるもので、現地の人たちは慣れた手つきであっという間に仕上げてしまう。

このかごバッグを使って国際協力ができないか。青年海外協力隊OGの久保綾子さんは、日本でフェアトレードショップ「プチスーク」をオープン。現地の女性たちに技術指導をしながら、日本に完成品を輸入して販売している。「日本で売れる商品を作りたい!」と女性たちも意欲満々。継続的に仕事を得ることで、表情も生き生きとしてきた。「かごバッグを購入すればちょっと世界のためになる。そんな気軽にできる国際協力のカタチを日本に広めたい」と久保さんは話す。

手にすると、モロッコの草木がそよぐ音が聞こえてきそうなかごバッグ。あなたのお出かけのアイテムに加えてみては。



かごバッグの生産技術は各家庭に受け継がれたもの。飾り付けは女性たちの仕事だ

★かごバッグを2人にプレゼント!→詳細は38ページへ

★かごバッグはプチスークの店舗(大阪市北区)とホームページ([www.petitsouk.com/](http://www.petitsouk.com/))で購入可能

